

# 稲作技術情報 No. 5

令和6年8月20日  
鳥取県産米改良協会

## 今後の管理のポイント

### ■いもち病、カメムシ防除の徹底

- 穂いもちは発生後の防除が困難であるため穂ばらみ期及び穂揃い期の2回防除を徹底する。
- 斑点米カメムシ類の薬剤防除は穂揃い期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行うこと。
- イネカメムシによる不稔被害を予防するには、出穂期の適期防除が重要であり、昨年度に被害が多かった西部地域や、東・中部地域でも現時点で偏在的な群発が見られた場合は、今後の中・晩生品種の出穂に合わせて防除を徹底すること。

### ■完全落水は収穫5日前以降

- 早期に落水すると玄米の品質が低下することから、収穫5日前までは完全落水しないように間断かんがいを励行する。

### ■積算気温、青籾率を確認して適期に収穫

- 夏季が高温の年次は特に、刈遅れによる品質低下が見られ易い。
- 近日の気象経過及び1か月予報を基に、本年は以下の出穂後積算気温を目安に適期収穫を励行する。
  - ・ひとめぼれ: 910～1,110℃ (青籾率 14～21%)
  - ・コシヒカリ : 890～1,140℃ (青籾率 10～25%)
  - ・星空舞 : 標高300m未満 1,000～1,260℃ (青籾率 0～10%)  
標高300m以上 920～1,170℃ (青籾率 0～12%)
  - ・きぬむすめ: 890～1,100℃ (青籾率 6～29%)

※早生品種の収穫適期は、昨年とほぼ同じ予想: 今後の気象条件で収穫適期は変動するため今後、農業試験場から8月下旬及び9月上旬に発表される最新の収穫適期予測を注視する。

## I 天気概況

### 1 天気予報

## 中国地方 1か月予報 (8月17日から9月16日までの天候見通し)

令和6年8月15日  
広島地方気象台発表

#### <特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

#### <予想される向こう1か月の天候>

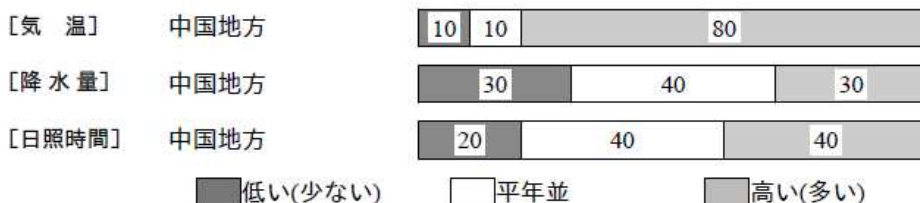
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

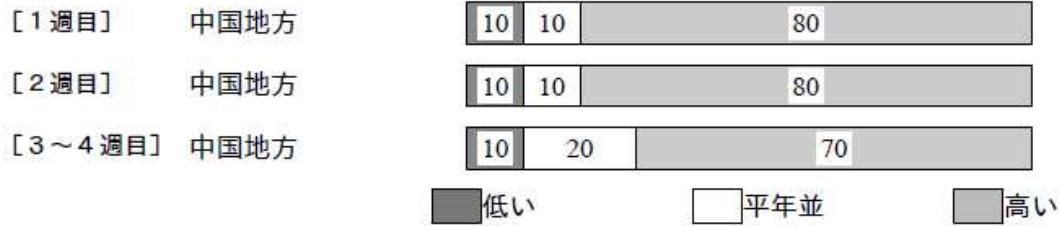
向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率70%です。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



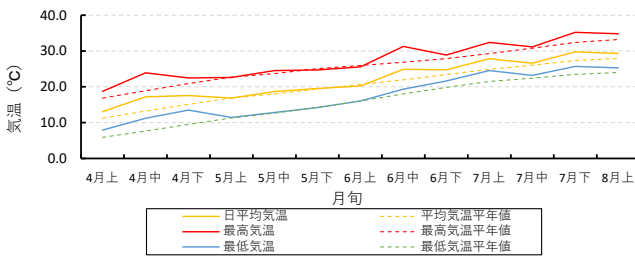
<気温経過の各階級の確率 (%)>



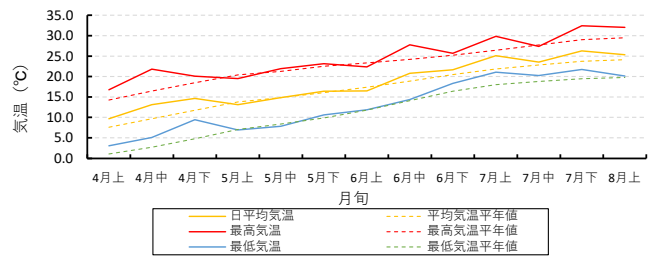
<予報の対象期間>

1か月 : 8月17日(土) ~ 9月16日(月)  
 1週目 : 8月17日(土) ~ 8月23日(金)  
 2週目 : 8月24日(土) ~ 8月30日(金)  
 3~4週目 : 8月31日(土) ~ 9月13日(金)

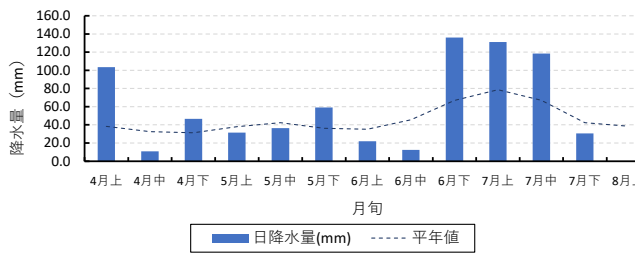
2 気象経過



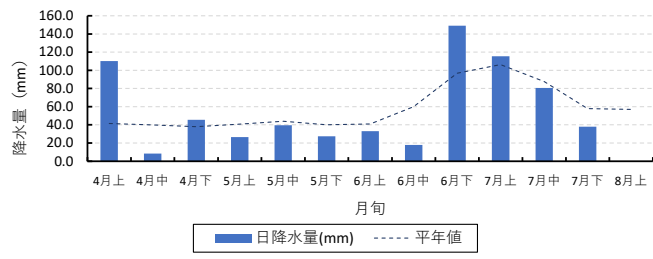
R6.4-8月の旬別気温の推移(鳥取市アメダス)



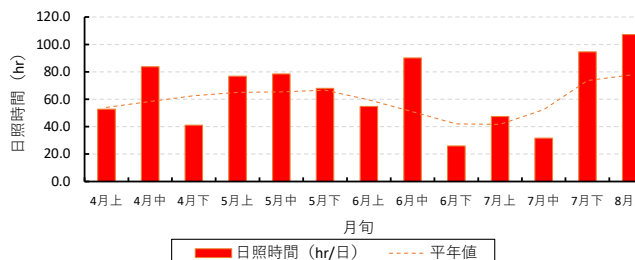
R6.4-8月の旬別気温の推移(日南町茶屋アメダス)



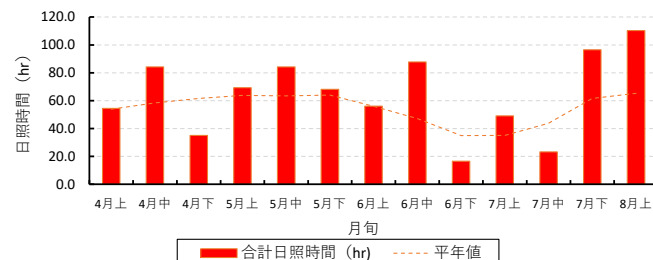
R6.4-8月の旬別降水量(鳥取市アメダス)



R6.4-8月の旬別降水量(日南町茶屋アメダス)



R6.4-8月の旬別日照時間(鳥取市アメダス)



R6.4-8月の旬別日照時間(日南町茶屋アメダス)

		鳥取市				日南町茶屋			
月	旬	合計降水量(mm)		合計日照時間(hr)		合計降水量(mm)		合計日照時間(hr)	
		R6年	平年値	R6年	平年値	R6年	平年値	R6年	平年値
7月	月上旬	131.0	78.6	47.4	41.7	115.5	106.2	49.1	35.1
	月中旬	118.5	67.0	31.6	52.4	80.5	87.6	23.2	43.7
	月下旬	30.5	42.4	94.6	73.7	38.0	57.9	96.6	61.6
8月	月上旬	0.0	38.5	107.3	77.8	0.0	57.0	110.3	65.3

7月下旬の梅雨明以降、出穂が始まる時期に平均気温が1~2℃程度高く推移している。6月下旬以降、7月下旬の梅雨明まで、まとまった降雨によって降水量が平年並からやや多かった。梅雨時期の曇雨天により、6月下旬、7月中旬に寡照傾向であったが、梅雨明以降は多照で、8月上旬は無降雨が継続し、用水が不足する地域があった。

## II 生育概況

- ・現地ほ場の生育は概ね順調である。
  - ・目立った病害の発生は見られないが、紋枯病やごま葉枯病の発生が散見される。
- また、一部の地域でイナゴ類の発生が目立ち、虫害による白穂も見られ、西部地域ではイネカメムシによる不稔穂の発生が散見される。

### 【農業試験場作況田】

#### ○早期(5/10移植)

- ・ひとめぼれの出穂期は7月23日であった(平年+0日)。葉齢進展は平年並で、茎数はやや多いが、葉色は平年並。
- ・コシヒカリの出穂期は7月22日であった(平年-6日)。葉齢進展はやや遅れており、茎数は多いが、葉色は平年並。

#### ○普通期(5/24移植)

- ・コシヒカリの出穂期は8月3日であった(平年±0日)。葉齢進展は平年並で、葉色は濃い。
- ・星空舞の出穂期は8月8日であった(平年±0日)。葉齢進展はやや早く、茎数は少ないが、草丈は長く、葉色は濃い。
- ・きぬむすめの出穂期は8月17日であった(平年+2日)。葉齢進展はやや早く、茎数は少ないが、草丈は長く、葉色は濃い。

5月10日移植(4月16日播種)

調査項目		ひとめぼれ			コシヒカリ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
生育ステージ	最高分けつ期	6月28日	6月27日	+1	6月28日	6月29日	-1
	幼穂形成期	7月3日	6月30日	+3	7月5日	7月5日	0
	出穂期	7月23日	7月23日	+0	7月22日	7月28日	-6
	成熟期						
苗乾物重(mg/本)	田植時	17.0	15.4	110	15.0	16.3	92
葉 齢 (葉)	田植時	3.3	3.3	0.0	3.4	3.2	+0.2
	15日後	5.5	6.0	-0.5	5.5	5.6	-0.1
	25日後	6.8	7.8	-1.0	7.4	7.5	-0.1
	35日後	8.8	9.6	-0.8	8.8	9.3	-0.5
	45日後	10.4	10.8	-0.4	10.5	10.6	-0.1
	幼穂形成期	11.5	11.5	-0.0	11.8	11.8	+0.1
	止葉葉位	14.0	13.8	+0.2	12.9	13.7	-0.8
茎 数 (本/m)	田植時	57	65	-	57	57	100
	15日後	72	71	102	67	58	116
	25日後	185	187	99	170	155	110
	35日後	281	353	80	296	306	97
	45日後	509	523	97	457	444	103
	幼穂形成期	565	525	108	499	431	116
草 丈 (cm)	田植時	13	10.4	125	13	11.5	113
	15日後	16	20.2	79	19	23.9	80
	25日後	22	23.0	96	26	26.9	97
	35日後	28	32.1	87	28	34.3	82
	45日後	47	48.2	98	52	49.4	105
	幼穂形成期	70	57.5	122	77	65.8	117
葉 色 (SPAD値)	田植時	25.7	26.5	-0.8	24.7	24.5	+0.2
	15日後	32.5	29.8	+2.7	30.3	26.8	+3.5
	25日後	39.0	37.9	+1.1	37.3	36.4	+0.9
	35日後	41.1	38.7	+2.4	40.8	37.0	+3.8
	45日後	40.9	37.1	+3.8	39.1	35.8	+3.3
	幼穂形成期	40.5	36.6	+3.8	35.8	33.0	+2.8
	出穂期	38.8	37.4	+1.5	38.5	38.7	-0.2

5月24日移植(5月5日播種)

調査項目		コシヒカリ			星空舞			きぬむすめ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
生育ステージ	最高分けつ期	7月8日	7月6日	+2	7月8日	7月7日	+1	7月8日	7月7日	+1
	幼穂形成期	7月14日	7月12日	+2	7月21日	7月19日	+2	7月26日	7月25日	+1
	出穂期	8月3日	8月3日	+0	8月8日	8月8日	+0	8月17日	8月14日	+2
	成熟期									
苗乾物重(mg/本)	田植時	17.5	16.6	106	15.0	15.8	95	14.5	15.5	93
葉 齢 (葉)	田植時	3.1	3.3	-0.2	3.1	3.4	-0.3	2.9	3.1	-0.2
	15日後	5.8	6.1	-0.3	5.7	6.1	-0.4	5.6	5.9	-0.3
	25日後	8.3	8.1	+0.2	8.3	8.1	+0.2	8.3	8.0	+0.3
	35日後	10.2	10.0	+0.2	10.1	9.9	+0.2	10.2	9.9	+0.3
	45日後	11.6	11.2	+0.4	11.5	11.2	+0.3	11.8	11.3	+0.5
	幼穂形成期	12.4	11.7	+0.6	13.0	12.3	+0.7	13.5	12.9	+0.6
	止葉葉位	14.2	13.8	+0.4	14.6	14.3	+0.3	16.0	15.1	+0.9
茎 数 (本/m)	田植時	57	57	100	57	57	100	57	65	-
	15日後	63	73	86	63	78	81	57	95	60
	25日後	167	196	85	160	216	74	144	240	60
	35日後	326	369	88	394	435	91	324	448	72
	45日後	321	396	81	408	471	87	350	504	69
	幼穂形成期	310	388	80	380	454	84	332	445	65
草 丈 (cm)	田植時	14	13.1	107	13	12.4	105	13	13.6	96
	15日後	21	25.5	83	20	23.2	86	18	21.9	82
	25日後	26	31.2	83	23	28.8	80	24	29.3	82
	35日後	47	43.0	109	41	38.0	108	41	40.9	100
	45日後	70	64.1	109	64	57.0	112	69	65.1	106
	幼穂形成期	78	70.4	111	79	69.1	114	96	84.0	115
葉 色 (SPAD値)	田植時	23.2	26.5	-3.3	24.5	26.5	-2.0	24.3	26.1	-1.8
	15日後	24.7	30.2	-5.5	26.3	31.7	-5.4	25.6	31.1	-5.5
	25日後	36.9	36.0	+0.9	38.2	36.3	+1.9	39.6	37.0	+2.6
	35日後	39.5	36.6	+2.9	37.6	37.3	+0.3	39.3	36.8	+2.5
	45日後	33.6	35.0	-1.4	34.5	35.7	-1.2	34.5	36.4	-1.9
	幼穂形成期	35.5	33.4	+2.1	35.0	31.2	+3.9	35.2	29.6	+5.5
	出穂期	41.6	37.1	+4.6	38.6	35.7	+2.9	39.1	34.8	+4.3

### Ⅲ 技術対策

#### 1 病害虫防除

##### (1) いもち病

令和6年8月13日発表の、別紙1「令和6年度病害虫発生予察指導情報（対象病害虫：イネ・いもち病）No.6」を参照。

##### (2) 斑点米カメムシ類

令和6年7月26日発表の、別紙2「令和6年度病害虫発生予察注意報（対象病害虫：斑点米カメムシ類）No.4」を参照。

#### 2 水管理

##### (1) 早期落水により白濁粒が増加

- ・早期落水すると白濁粒が増加し、玄米品質が低下する。
- ・地耐力を高めるためには、間断かんがいにおける減水期間を長めにとり、徐々に土を固めていくこと。特に中干しが不十分なほ場で、早期の完全落水は絶対に行わず、間断かんがいを継続しながら田面を硬化する管理を徹底すること。

##### (2) 中生品種では特に早期落水に注意

- ・高温年でも安定して品質が良い「きぬむすめ」においても、早期落水により白濁粒が増加した事例が過去に確認されている。
- ・早生品種にあわせた水利慣行による落水の結果、中生品種では登熟期間中の早期落水となり、水分ストレスによって品質が低下する事例が各地で見られている。地域で話し合いを行い、きぬむすめの登熟にあわせた落水時期の設定を行うことが、産地全体の品質向上のためには特に重要である。
- ・現在、中生品種は出穂から登熟初期に当たっており、特に注意して間断かんがいを励行すること。

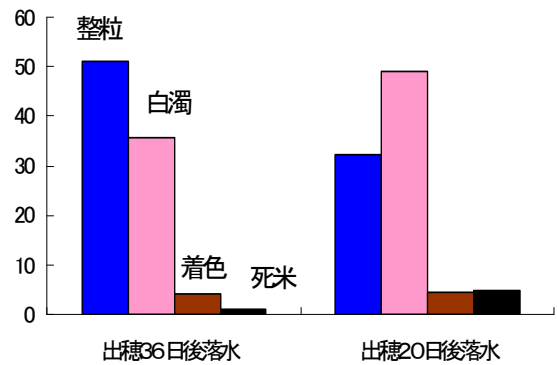


図 落水時期の違いによる玄米品質 (1995、鳥取農試)

※ (ビニールハウスで高温条件を作出)

#### 3 適期収穫

##### (1) 本年の適期収穫の目安

本年度は、7月以降の気温が平年値より2~3℃高く推移しており、メッシュによる今後3週間の予測気温値も平年より1.5~2.5℃程度高く推移することが予測されている。昨年と比較すると0.5℃程度低い予想となっているが、同程度の深刻な暑さが予想されるため、高温年として予測を実施した。

主要品種ごとの収穫適期目安

平成28年12月作成

品種	8~10月の気象区分	出穂後日数(日)	出穂後積算気温(℃)	青糲率(%)	糲水分(%)
コシヒカリ	通常年	—	1,000	10.0	—
	低温年	38~46	910~1,070	16~18	25~26
	高温年	33~42	890~1,140	10~25	23~26
ひとめぼれ	通常年	—	1,000	5~10	—
	低温年	43~45	1,000~1,110	10~21	24~27
	高温年	38~42	910~1,110	14~21	24~28
きぬむすめ	通常年	40~45	1,050~1,150	5~13	22~24
	低温年	47~53	1,010~1,100	9~22	25
	高温年	37~46	890~1,100	6~29	21~26

注1 調査年次:2014~2016年、調査場所:現地(コシヒカリ:7、ひとめぼれ:4、きぬむすめ:4)、農試2ほ場(作況田、中6ほ場)

注2 8月~10月の鳥取市アメダスの旬別日平均気温の平年差により低温年(H26、27を平均)、高温年(H28)とした。

注3 収穫時期は現地・農試データより推定した。現地試験以降の刈取時形質の数値は、農試試験を採用した。

### ○収穫適期はほぼ前年並の予想

・8月19日時点では、早生品種の収穫適期は、昨年と同じ予想であるが、異常な高温が継続しているため、実際のほ場における登熟の進捗を観察し、刈遅れを防止すること。

### ○収穫適期の目安

・本年度も2016年まで行った収穫適期試験(上表)を基に、農業試験場が作成した品種別、標高別の収穫適期(5~6ページ)を参考に収穫時期を判定し、**予測収穫適期の3~4日前**には収穫の準備を行うこと。

・また、収穫適期が近づいたら、上表を参考にしながら、ほ場で青刈率を確認すること。

### ○青刈率

・青刈率が少々高い場合であっても、気象条件によっては収穫適期を迎えている場合が少なくない。

### ○高温年の弊害

・高温年には、成熟期以降の呼吸により、種子に貯蔵されたデンプンが分解消費され、基部未熟・背白を主体とする白濁粒が増加するため、収穫遅れによる品質低下が著しい。

### ○コシヒカリの収穫

・ひとめぼれとコシヒカリを比較すると、コシヒカリの方が品種特性として刈り遅れによる品質低下が発生しやすいため、場合によっては、ひとめぼれより先にコシヒカリを収穫することが有効である。

・コシヒカリが著しく倒伏すると、穀粒水分が高く推移することで、穂発芽粒が発生するとともに、田面が乾燥しにくくなるため、収穫作業の条件悪化が想定される場合は、コシヒカリの収穫を優先する。

・コシヒカリとひとめぼれは収穫適期が近く、同時進行で収穫する場面が多いため、迅速に収穫乾燥作業を進めることで、極力刈り遅れとならないように配慮する必要があるが、同時に異品種混入を起ささないよう正確な区分作業が求められる。

## (2) 標高別出穂期別の収穫適期予測(8月19日農業試験場公表)

鳥取県産米改良協会  
鳥取県農業試験場

### 出穂した時期別の収穫適期予測について(令和6年8月19日現在)

収穫適期の予測を行いますので、適期収穫を目指した収穫作業計画の参考として活用してください。

#### 【情報を活用する上での注意点】

○高温年での収穫適期は、出穂後の日平均気温積算値を基に予測しており、ひとめぼれ 910~1110℃、コシヒカリ 890~1140℃となる月日です(R4年度水稲・大豆・小豆栽培指導指針)。星空舞は、標高300m未満の地域で1000~1260℃(有効積算気温620~770℃)、標高300m以上の地域で920~1170℃(有効積算気温510~620℃)となる月日です(R4年版「星空舞」栽培手帳)。

○アメダスの実測値及び1ヶ月予報値を基に各1kmメッシュの日平均気温を推定し、積算気温により収穫時期を予測しています。

○あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。

○収穫適期を予測したいほ場の標高は、地図などで検索してください。

#### 【現時点での状況】

今年の平均気温は、平年値(直近30年平均)より7月が+2.5℃、向こう1か月の予測値が+1.8℃となっており、高温年に該当します。

特に早生品種の刈り遅れに注意し、玄米品質の低下を防ぎましょう。

※9/16以降の予測日は、平年値(直近30年平均気温)を含むため、今後の更新に注意してください。

### ひとめぼれ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)				
	7/20	7/25	7/30	8/5	8/10
0~49m	8/21 ~ 8/28	8/26 ~ 9/3	8/31 ~ 9/9	9/7 ~ 9/15	9/12 ~ 9/21
50~99m	8/22 ~ 8/29	8/27 ~ 9/4	9/1 ~ 9/10	9/8 ~ 9/16	9/13 ~ 9/23
100~149m	8/22 ~ 8/29	8/27 ~ 9/4	9/1 ~ 9/11	9/8 ~ 9/17	9/14 ~ 9/24
150~199m	8/22 ~ 8/30	8/28 ~ 9/5	9/2 ~ 9/11	9/9 ~ 9/18	9/14 ~ 9/24
200~249m	8/23 ~ 8/30	8/28 ~ 9/6	9/2 ~ 9/12	9/9 ~ 9/18	9/15 ~ 9/25
250~299m	8/23 ~ 8/31	8/28 ~ 9/6	9/3 ~ 9/13	9/10 ~ 9/19	9/16 ~ 9/26
300~349m	8/24 ~ 9/1	8/29 ~ 9/7	9/3 ~ 9/14	9/10 ~ 9/20	9/16 ~ 9/27
350~399m	8/24 ~ 9/1	8/29 ~ 9/8	9/4 ~ 9/14	9/11 ~ 9/21	9/17 ~ 9/28

### コシヒカリ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)				
	7/25	7/30	8/5	8/10	8/15
0~49m	8/25 ~ 9/3	8/30 ~ 9/9	9/6 ~ 9/16	9/10 ~ 9/23	9/18 ~ 9/30
50~99m	8/26 ~ 9/4	8/31 ~ 9/10	9/7 ~ 9/18	9/11 ~ 9/24	9/19 ~ 10/1
100~149m	8/26 ~ 9/5	9/1 ~ 9/11	9/7 ~ 9/18	9/12 ~ 9/25	9/19 ~ 10/2
150~199m	8/27 ~ 9/5	9/1 ~ 9/11	9/8 ~ 9/19	9/12 ~ 9/26	9/20 ~ 10/3
200~249m	8/27 ~ 9/6	9/2 ~ 9/12	9/8 ~ 9/20	9/13 ~ 9/27	9/20 ~ 10/4
250~299m	8/28 ~ 9/7	9/2 ~ 9/13	9/9 ~ 9/21	9/13 ~ 9/28	9/21 ~ 10/5
300~349m	8/28 ~ 9/7	9/2 ~ 9/13	9/9 ~ 9/22	9/14 ~ 9/29	—
350~399m	8/28 ~ 9/8	9/3 ~ 9/14	9/10 ~ 9/22	9/15 ~ 9/30	—

### 星空舞予測収穫適期

(月/日)

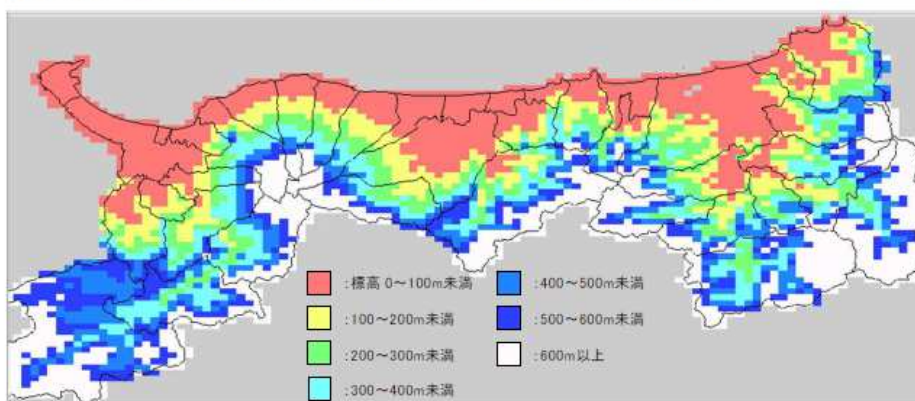
標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)				
	7/30	8/5	8/10	8/15	8/20
0~49m	9/3 ~ 9/14	9/10 ~ 9/22	9/16 ~ 9/29	9/23 ~ 10/3	9/30 ~ 10/14
50~99m	9/4 ~ 9/15	9/11 ~ 9/23	9/17 ~ 9/30	9/24 ~ 10/5	10/1 ~ 10/16
100~149m	9/5 ~ 9/16	9/12 ~ 9/25	9/18 ~ 10/2	9/25 ~ 10/7	10/2 ~ 10/18
150~199m	9/5 ~ 9/17	9/13 ~ 9/25	9/19 ~ 10/3	9/26 ~ 10/8	10/3 ~ 10/19
200~249m	9/6 ~ 9/18	9/13 ~ 9/26	9/19 ~ 10/3	9/26 ~ 10/9	—
250~299m	9/6 ~ 9/19	9/14 ~ 9/27	9/20 ~ 10/5	9/27 ~ 10/10	—
300~349m	9/4 ~ 9/15	9/11 ~ 9/23	9/17 ~ 9/30	9/23 ~ 10/8	—
350~399m	9/4 ~ 9/16	9/11 ~ 9/24	9/17 ~ 10/1	9/24 ~ 10/9	—

### きぬむすめ予測収穫適期

(月/日)

標高	出穂期 (ほ場の約50%が出穂した日)			
	8/10	8/15	8/20	8/25
0~49m	9/11 ~ 9/23	9/18 ~ 9/30	9/24 ~ 10/7	10/1 ~ 10/16
50~99m	9/12 ~ 9/25	9/19 ~ 10/2	9/25 ~ 10/9	10/3 ~ 10/18
100~149m	9/13 ~ 9/26	9/19 ~ 10/3	9/26 ~ 10/11	—
150~199m	9/14 ~ 9/27	9/20 ~ 10/4	9/27 ~ 10/12	—

### 【参考】鳥取県内における1kmメッシュの平均標高分布図



## 4 適正な収穫・乾燥・調製作業

### (1) 収穫

・穂もち、カメムシ類、内穎褐変病等の病害虫が多発したほ場や、倒伏等により品質が著しく劣るほ場は、仕分けして刈取り、良質な籾と混ざることがないように乾燥も別で行う。

・倒伏の著しいほ場でのコンバイン刈取作業は、機械トラブルを避けるため、以下①～③に留意する。

①作業速度は低速

②刈取条数はやや控える

③倒伏した株は、倒伏方向に対して逆刈りは避け、追刈りとなるような行程を選択する

・刈取品種が変わる場合は、コンバインの清掃を確実にを行い、混種が起こらないように細心の注意を払う。コンバインの取扱説明書清掃の手順に従って適切に掃除口を開放し、エアークンプレッサーや動力散布機の風圧を利用して、抜き胴・各種受け網、穀粒搬送オーガ等の残留籾を完全に排出させる。

### (2) 乾燥

・乾燥機への張込時籾水分は、周期的な降雨や倒伏により30%以上となることもあるので、乾燥機の条件設定には十分注意する。高水分籾は高温下では急速に変質するので、収穫後は直ちに乾燥機に張込み、通風及び循環を行う。また、高水分籾は水分ムラが大きいので、25%程度まではなるべく常温で乾燥する。

籾水分(%)	28	27	26	25	24	23	22	21	20
放置可能時間(hr)	3	4	4	5	6	12	24	48	72

(注) 三重農試資料

### (3) 調製

- ・籾の水分測定は、勘や感覚に頼らず正しく調整された水分計を用いて行う。試料は未熟粒を取除いた整粒のみとし、乾燥中の籾は穀温補正を行って測定する。
- ・乾燥機の熱風温度、循環速度は機種所定の方法に従い、毎時乾減率は0.8%以下(遠赤外線乾燥機は1.0%以下)とする。特に良食味を確保する際には、先ず低温で水分ムラを均してから、ゆっくり時間をかけて乾燥する。
- ・仕上げ水分は15.0～15.5%の範囲とし、過乾燥にならないように注意する。
- ・過乾燥を防止するためには、乾燥機のタイマー設定を1～2時間控えめとし、以後こまめに水分測定しながら仕上げる。また、青未熟粒の割合に応じて玄米水分を決定し乾燥機を止める。

乾燥後の玄米水分の変化の目安

100粒中の青未熟粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の玄米水分
0～5粒	16.0～15.6%	0.5%程度乾く
6～10粒	15.5～15.1%	ほとんど変わらない
11粒以上	15.0%	0.5%程度戻る

(注) 富山県米作改良対策本部資料

【参考1】適期収穫により、等級や食味の向上を目指しましょう

☆収穫適期では、水分が高く、刈取りを躊躇する例が見受けられます。  
 ☆ほ場での水分低下を待つことで、刈遅れにならないように、産地全体として適期収穫を推進しましょう。

【等級や食味向上で最も効果的な対策は？】

玄米は、①刈遅れ、②高温(特に夜温)、③籾数過剰、④栄養不足、⑤日射量不足の条件下で、白濁未熟粒の発生が多くなり、品質が低下することが知られています。今から講じることができる対策の内、最も効果的なものは、早期落水の防止による栄養状態の安定と適期収穫です。

刈遅れとなった場合に、白濁未熟粒(特に基部未熟粒)や着色粒、胴割粒が増加し、玄米外観上の充実度や光沢が劣ることから、適期収穫の玄米と比べて検査等級の低下につながりやすくなります。また、収穫が遅れると、食味も低下することが知られています。

鳥取県における等級低下の大きな要因の一つは刈り遅れであると考えられます。

JAでは、適期収穫への取組みを推進するため、収穫された籾の乾燥が適期に対応できるように、施設稼働の準備を進めています。また、収穫遅れによって、下凶のとおり等級や食味評価が低下するという試験結果もあることから、生産者の所得低下や産地評価の低下に直結します。

産地全体の食味品質向上や生産者の所得向上のために、引続き適期収穫を徹底しましょう。

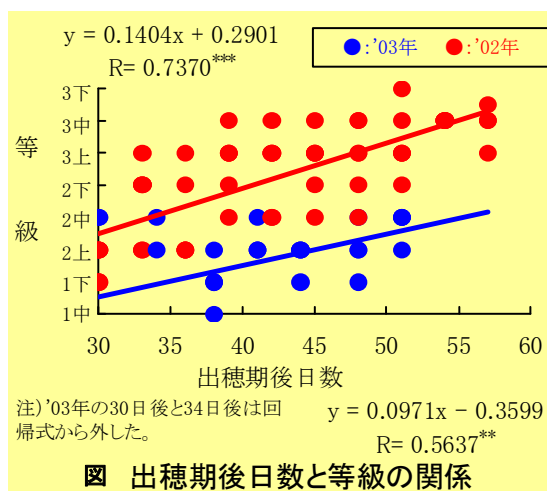
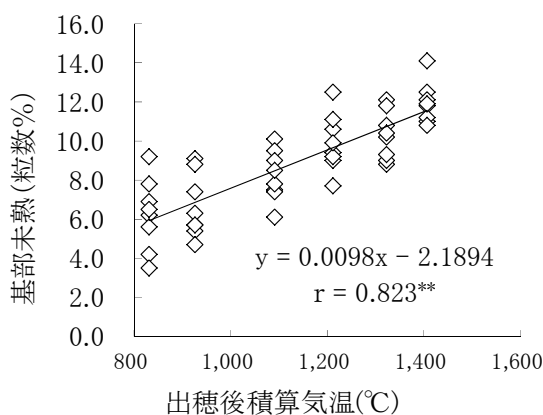


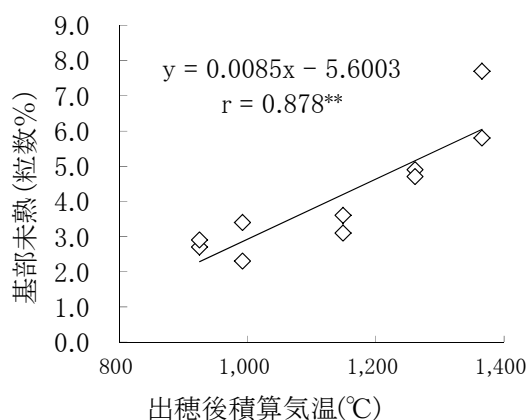
表 コシヒカリの収穫期別食味成績

サンプル	外観	味	総合	ランキング
適期収穫	0.30	0.50	0.55	A相当
適期10日後	-0.25	0.10	0.10	A'相当

鳥取農試産米を穀物検定協会に試験依頼した。



注1) 調査年次: 2011年、調査場所: 鳥取農試  
 注2) n=48



注1) 調査年次: 2013年、調査場所: 鳥取農試  
 注2) n=10(坪40株・穂肥II 2kg)



【参考2】熱中症による救急搬送が多発しています。引続き熱中症対策を徹底しましょう。

**農作業中の熱中症が毎年多発しています！**

農作業による熱中症救急搬送件数

年度	搬送件数(件)
H27	45
H28	45
H29	55
H30	50
R1	55
R2	75
R3	45
R4	65
R5	60

☆ 無理をすると判断力も作業効率も低下します！

☆ 家族など、身近な声かけから対策を始めましょう！

**高齢者の発症が多くなっています！**

救急搬送対象者の年齢構成

年代別	比率
90歳以上	10%
80-89歳	11%
70-79歳	30%
60-69歳	36%
50-59歳	13%

※11-4年平均

# 休憩と水分摂って いい仕事

**鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会**

事務局 鳥取県農林水産部経営支援課 電話0857-26-7327  
 J A 鳥取県中央会 J A 支援部農業くらし対策室 電話0857-21-2633

# 農作業中の熱中症の予防管理

## ○ 高温時の作業を避けましょう

- 最高気温30℃以上が予想される場合、**熱中症警報**が出されます。
- 県の「あんしんドリビーメール」や農林水産省の「MAFFアプリ」に登録しておく、スマートフォンに情報が提供されます。

## ○ こまめに休憩し、水分を補給しましょう

- 農作業には必ず水、水(保冷剤)や濡れタオルなどを持参しましょう。
- 涼しい日陰等で休憩し、**20分ごとにコップ1~2杯の水分**と適宜塩分も補給しましょう。

## ○ 涼しい服装で、体温を調節しましょう

- 農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう。
- **空冷ファン付き着衣や冷却グッズを有効活用**し、作業中の体温を調節しましょう。

## ○ 作業は2人以上で行いましょう

- 急に動けなくなることがあるため、**1人での作業はできるだけ避けましょう。**
- 1人で作業する場合は、必ず、家族等に**作業場所と帰宅予定時刻を伝えましょう。**

## ○ 日頃から健康管理を行いましょう

- 「**おしっこカラーチャート**」で自身のカラダの脱水状態を確認して、水分補給を行います。
- 睡眠不足、体調不良、前日などの飲酒、朝食の未摂取、発熱、下痢などによる脱水などは、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあります。

### 熱中症に注意 !!

## おしっこカラーチャート

おしっこは、体の情報が盛り沢山!!

おしっこの色は何番ですか？

もしも**3番以上**の色は、

「**水分と塩分の補給**」が必要です

尿の色	カラダの状態と対策
1	<b>正常</b> 水分補給は、十分です。 予防のために、定期的に水分補給しましょう
2	
3	<b>注意</b> 脱水症への傾向があります。 補給の頻度を増やすこと
4	
5	<b>注意</b> 脱水症です。 水分補給が必要です。 口から補給で良いですか？
6	
7	<b>危険</b> 重症の脱水症です。 意識・状態が、 直ぐに病院へ
8	

鳥取県農作業安全・農機具溶融防止協議会

### 協議会からのお知らせ

#### 【農作業安全研修の実施希望について】

県内では毎年死亡事故を含め農作業事故が発生しています。特に死亡事故は家族にとどまらず、地域農業や法人経営に大きな影響を及ぼします。

このため、協議会では**兼営営農組織、法人等を対象にした研修(対話型研修)**の推進を図り、生産者の安全意識の向上と農作業安全の取組を進めましょう。

**研修を希望される方、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。**

#### <対話型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、生産者自ら仲間と意見交換しながら、安全対策についても話し合いを行います。これに基づいて組織や仲間の日頃から実施する目標を定めて、みんなで一緒に取り組んでいただくきっかけとするものです。

